ピンクシャツデー
の
はじまり

ピンクシャツデー神奈川推進委員会

認定NPO法人神奈川子ども未来ファンド

はじまり１

いまから10年以上も前のことです。カナダの高校に通うダニエルはピンクのシャツを着て登校しました。

はじまり２

すると数人の生徒が笑いながら近づいてきました。
「ピンクシャツ着てるぜ。こいつ、キモイな」
「どうしてさ。ぼくがどんな色を好きでも自由だろ」
ダニエルが答えると、
「ピンクは女子って決まってるんだよ！」
生徒たちはダニエルを取り囲み、なぐりかかりました。

はじまり３

ほかの生徒たちは何もできずただ見ているだけでした。

ディヴィッドとトラヴィスも同じでした。

「いじめはもううんざりだ」「見ていたぼくらもダニエルを傷つけたよな」。

下校途中、ふたりは話し合い、あることを決心します。

はじまり４

ふたりはディスカウントストアに行きました。
おこづかいを出し合って75枚のピンクのTシャツやタンクトップを買いました。

はじまり５

そしてその夜、クラスのみんなにこう言いました。
「明日、いっしょに学校でピンクシャツを着よう」と。

はじまり６

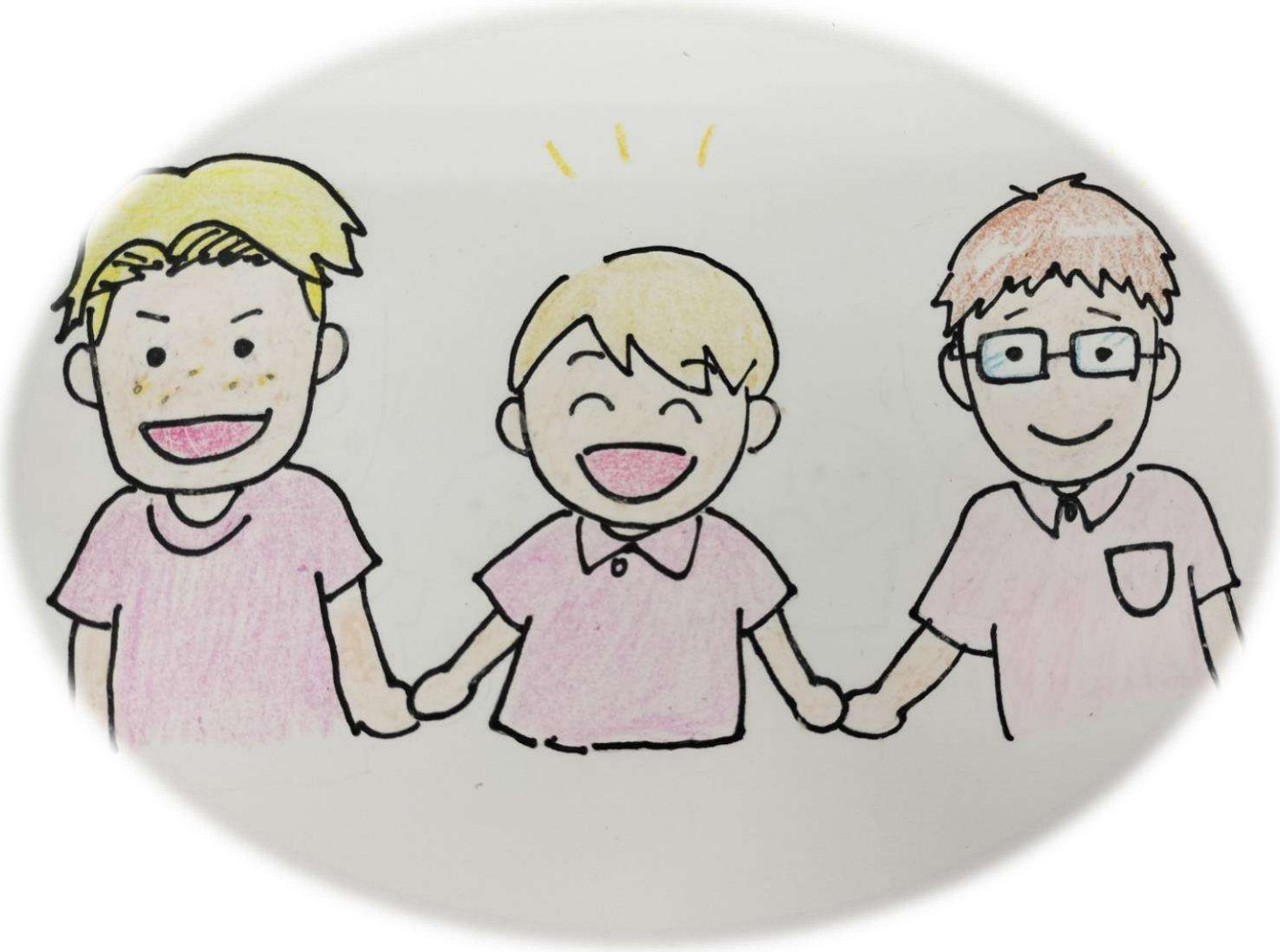
次の日の朝。ふたりが目にしたのは、ピンクシャツやリストバンド、リボンなどピンクのものを身に付けた生徒たちの姿でした。

はじまり７

ふたりの思いがクラスのみんなに届き、学校中に伝わっていたのです。

校内がピンク色に染まりました。登校してきたダニエルの顔はおどろきから笑顔へと変わりました。

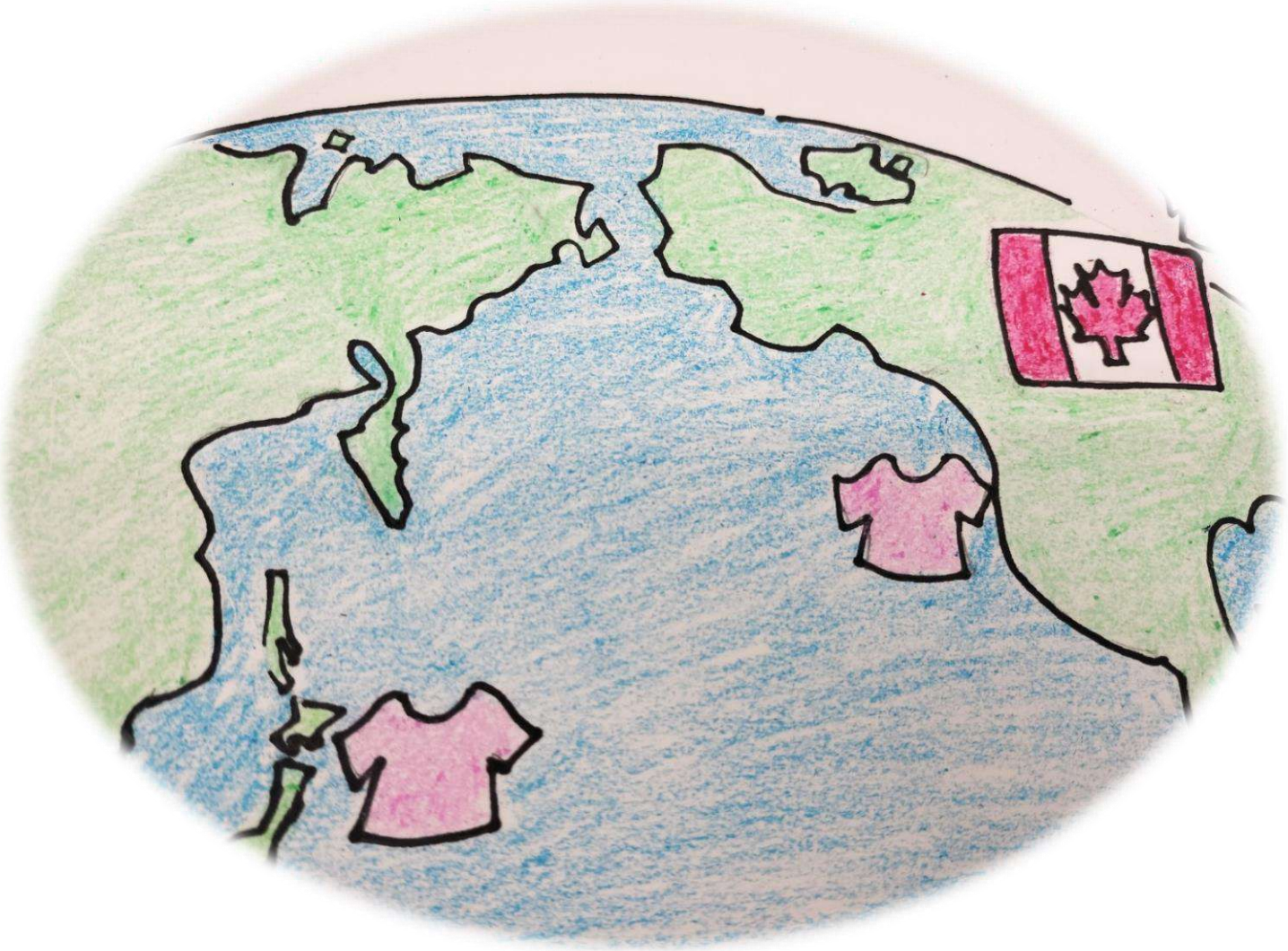
その日がピンクシャツデーの始まりでした。



はじまり８

ふたりの思いから始まったピンクシャツ運動は、カナダから世界へと広がっていきました。

神奈川県では毎年２月をピンクシャツデー月間とし、最終水曜日にさまざまなアクションを展開しています。



はじまり９

みなさんも２月にはピンクのシャツや小物を身につけて、いじめ反対の意思を伝えましょう！

ちがう国籍、ちがう文化、ちがうファッション。ちがうことはあたりまえ。ちがうことは大切な個性。だからこそちがいを認め合うクラスに。共に生きる世界に。

「ピンクシャツデーのはじまり」

紙芝居制作チーム
藤原あやめ　・　吉富多美